Town Topics ～まちのわだい～

▲ひなまつりを歌う人形雛（水竹居の館）

▲本町アーケードでの牛車パレード

★春を感じて・・・

第５回城下町やつしろのお雛祭り

２月 18 日、本町・通町商店街や日奈久温泉街などでお雛祭りがはじまりました。初日は、本町アーケードでオープニングセレモニーが行われ、勇壮な太鼓やブラスバンドの演奏やパレードなどが行われました。パレードでは、出演者の華やかな衣装や、手作りの平安牛車に、多くの人が足を止めて見入っていました。

３月 18 日までの期間中、松濱軒や市立博物館などでも様々なお雛さまの展示やイベントが開催されました。

また、鏡町の赤星公園水竹居の館でも３月２日～４日、第３回赤星公園ひなまつりが開催されました。期間中は約 140 年前の赤星家のお雛さまをはじめ、地元の宝出地区のみなさんが干拓大地への感謝の気持ちを込めて作られた“宝出雛”などの展示のほか、文政第２保育園の園児による可愛らしい人間雛も登場。来場者と一緒にひなまつりを歌ったり、折り紙教室で雛作りに挑戦したりと、笑顔と楽しい語らいで満ち溢れていました。また、熊本県の俳句の里百選にも選ばれている水竹居の館で、俳句の投句や作品の展示等も行われました。

▲県内を中心に福岡、宮崎両県から、５歳～ 86 歳までの民謡愛好家の皆さんの熱唱

★２７６人が、自慢ののどを競う

第１回やつしろおざや節全国大会

２月 25 日、第１回八代おざや節全国大会が、おざや節発祥の地である八代市の鏡文化センターで盛大に開催され、県内外の民謡愛好家らが自慢ののどを披露しました。

大会会長の坂田八代市長が「先人の命がけの努力で生まれた土地を大事にしながら、生産性の高いい草、トマトなどが生産されてる。この偉業を後世に伝えるために、たくさんの皆さんに自慢ののどを披露してもらいたい」と、第１回の記念として挨拶。「ハアー　名所名所とおざやが名所　名所ナーおざや（コラショイショイ）ハアー名所にゃ水がない」と、276 人の個性あふれる歌声が続きました。

★１００歳おめでとうございます

▶奥村　ミサヲさん（西宮町）
明治40年2月10日生

「大きな声が健康の秘訣。若い時の苦労があって知らず知らず身体が鍛えられた。孫や曾孫の人数や名前は、スラスラ言えます」と、話された。

▶古川　シヅエさん（高下東町）
明治40年2月15日生

「地域活動でも活躍し、高田校区の婦人会長などを務め、友達も多く旅行が大好きだった」とのこと。おしゃれする中で、ファッションめがねが大好きです。

▶前田　チトセさん（鷹辻町）
明治40年2月16日生

「15 歳の時に競争率 40 倍の難関を突破して熊本女師範学校に入学。八代でたった一人だった」と話された。今でも小学校の教え子が白寿のお祝いをしてくれます。

▼規格外トマト製品について説明する八代農業高校フラワークリエイト科食品加工専攻生

▲坂田市長（左）から大人の部大賞の表彰を受ける「やつしろ菜の花部会」

★元気で魅力あふれる八代に

やつしろ元気づくり大賞活動発表会

２月 10 日、八代市厚生会館で「やつしろ元気づくり大賞 活動発表会」が開催され、青年の部５団体、大人の部５団体が観客に向けて熱のこもったプレゼンテーションを行いました。

各団体の発表後、観客による投票が行われ、青少年の部大賞には八代農業高校フラワークリエイト科食品加工専攻（鏡町）の「規格外のトマトを活用した加工品の研究」、大人の部大賞にはやつしろ菜の花部会（鏡町）の「菜の花プロジェクト～新幹線沿線を菜の花に～」が受賞し、特別賞には、秀岳館高校建設工業科（興国町）と日奈久割り勘コンサート実行委員会（日奈久）が選ばれました。

★熊本県賞受賞

第 12 回熊本県木材利用大型施設コンクール

３月 14 日、第 12 回熊本県木材利用大型施設コンクールの表彰式が知事応接室で行われ潮谷熊本県知事から坂田市長へ表彰状が手渡されました。坂本中学校が熊本県賞に選ばれた理由として、選考委員から「木で作られた校舎全体にわたって、豊かな表情が構造的にも造形的にも表れています。普通教室と違った雰囲気の特別教室も楽しい。周辺のすばらしい環境と絡み合って、生徒たちが学ぶための豊かで快適な空間となっています（抜粋）」と評価されました。

★“食”の大切さを知ろう

食育フェアーｉｎやつしろ

▲「はちべえトマト」の紙芝居風景

２月 18 日、食育の一層の推進を図ることを目的に、「食育フェアーｉｎやつしろ」が千丁文化センター周辺で開催されました。

講演会では、食育として大きな成果を出している香川県の国分寺中学の竹下和男校長先生から、小学生に自ら弁当を作る楽しさから食育を実践している成果が報告されました。また、市内各地域で生産された物産の展示即売や「はちべえトマト」の紙芝居なども行われました。

★男女がともに生きる社会を

いっそDE フェスタ 2007

男女共同参画社会の実現をめざして、２月 25 日、やつしろハーモニーホールで、「いっそ DE フェスタ 2007」が開催されました。

第１部では、キャスターの浜尾朱美さんが「地域ぐるみで子育て支援」と題して基調講演。自身の育児経験をもとに、「周囲のちょっとした手助けが大きな力となる」と、育児に対する地域社会の理解を訴えました。また、第２部では、「仕事一筋ではなく、育児や社会活動などの私生活とのバランスをとって、いきいきとした人生を送ろう」と、公開座談会も行われました。

▶湯浅　綾子さん（鏡町下有佐）
明治40年3月3日生

小学校４年生頃から耳が不自由になり、筆談や口元を見て会話を行った。誰にでもやさしく、毎日を穏やかにのんびりと送っています。

▶宮瀬　ハルさん（坂本町深水は）
明治40年3月1日生

小さい時から手先が器用で、編み物・裁縫・手芸が大好き。古い服を縫い直しては周りの人が羨ましがるような服を子どもに着せていました。

▶古嶋　ミツノさん（横手本町）
明治40年2月20日生

夫の遺言（子の大学進学）で７人の子どもたち全員が大学を卒業し自立しました。全員が自慢の子どもであり、幸せに暮らしていけるのも子どもたちのお陰です。